

平成 28 年 6 月 20 日現在

機関番号：32615

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520043

研究課題名(和文)中国飲食文化と陰陽五行説

研究課題名(英文)Chinese Food Culture and the Theory of Yin Yang and the Five Natural Elements

研究代表者

古藤 友子 (KOTO, Tomoko)

国際基督教大学・教養学部・教授

研究者番号：90195751

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：中国哲学における飲食文化について、1)『四庫全書』、『道蔵』、『術蔵』等の文献を用いて各時代の中国飲食思想の流れを整理、2)『本草綱目』を基本文献とし、日本の『大和本草』、朝鮮の『東医宝鑑』等との比較を試みた。

日本における本草学は一般の人々に必要な情報を分かりやすく提示した身近なものであった。『大和本草』の読者層は広く庶民、また飢饉のときに彼らの救済にあたる村の役人や指導者であったと推察できる。一方で、中国(民)の『本草綱目』の読者層は主に薬物を専門に扱う人々であったと考えられる。日本と中国のみならず韓国における食物本草関連書についての考察も今後の課題である。

研究成果の概要(英文)：For Chinese Food culture and the theory, 1) Organize the flow of Chinese food culture ideas of each era using literature such as "Siku Quanshu"『四庫全書』, "Daozang"『道蔵』, "Shu Zang"『術蔵』, 2) Compare Chinese "Compendium of Materia Medica" with Japanese "Yamato Materia Medica"『大和本草』, and the Korean "Donguibogam"『東医宝鑑』.

"Yamato Materia Medica"『大和本草』 was presented an easy-to-understand information for general people. The readers can be inferred to be a officials or leaders of village who correspond to their rescue at the time of the famine. On the other hand, readers of "Compendium of Materia Medica"『本草綱目』 is mainly a specialist for the drug. Consideration of food Materia Medica related certificate in Japan and China as well as South Korea only also is a future challenge.

研究分野：中国哲学

キーワード：中国飲食文化 陰陽五行説 五味論 本草学 日本飲食文化 韓国飲食文化

1. 研究開始当初の背景

中国の飲食文化について、従来主として、考古学、社会学、歴史学、科学史等の分野において研究されてきた。中国哲学の領域においては、祭祀や中国医学との関連で言及されることはあっても、飲食文化自体を正面から取り上げる研究が十分なされてきたとは言いがたい。

研究代表者は陰陽五行説についての体系的叙述である『五行大義』、また朱子の『周易本義』の訳注を刊行して以来、中国の飲食文化の諸相を中国哲学、東アジア思想史の観点から明らかにしようと、中国および朝鮮、日本における易・陰陽五行の展開について研究を続けてきた。今日までの一連の研究は、日本東アジア実学研究会で学んだ仁の心の実践を探究する課程において、心と身体を別物とせず、心身の両側面から中国文化を捉えなければならないと気づいたことに端を発している。心身を保ち、よく生きること、飲食は人間、社会、文化の基本である。この立場にたって研究をすすめる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、中国飲食文化について、陰陽五行説というパラダイムを用いてその諸相を明らかにしようとするものである。

(a) 『四庫全書』『道蔵』『食経』『術蔵』等の文献を用いて、各書物に表れた各時代の中国飲食思想の流れを整理し、それらの言説に基づく論拠を明らかにする。そして、陰陽五行思想のバリエーションがどのように展開されたかを分析する。特に五味論をキーワードとし、陰陽五行説と関連する中国飲食文化文献資料目録を作成し、また資料集を編纂する。

(b) 中国で発達した本草学を飲食文化との関連でとらえ、その論説が陰陽五行説とどのような関わりをもつかを明らかにする。明の李時珍が著した『本草綱目』(1596年刊)を

基本文献とし、日本の貝原益軒『大和本草』(1701年刊)、朝鮮の許浚『東医宝鑑』(1613年刊)等との比較を試みるとともに、中国・朝鮮・日本の本草学関係の文献目録を作成し、入手しにくい文献については資料集を編纂する。

3. 研究の方法

平成24年度は、研究代表者の特別研究期間にあたるため、京都大学文学研究科私学研修員として研究を進めた。また、京都大学人文科学研究所術数学研究会(代表:武田時昌)にも参加し、『五行大義』『五味論』を読み進め、研究会では五味論や飲食文化について参加者と意見交換した。飲食文化および本草学関係の資料については、京都大学に所蔵されている図書及び資料の整理を、国際基督教大学大学院白紙後期課程の学生とともに行った。さらに、資料収集のために韓国中央図書館、ソウル大学奎閣等を訪れた。

平成25年度は、毎月の京都大学人文科学研究所術数学研究会と占術研究会に参加し、『五行大義』と京大室町抄本『大易断例卜筮元龜』を購読した。

また、平成25年度より国際基督教大学において研究代表者が所属するアジア文化研究所主催による飲食文化研究会および例会を開催し、広く研究者との意見交換を行った。

引き続き中国飲食文化と陰陽五行説文献目録及び資料集の収集にあたった。

4. 研究成果

平成24年度は、特別研究期間を利用してかなりの時間を研究のために使うことができた。京都大学人文科学研究所の術数学研究会では五味論や飲食文化について参加者と意見を交換した。

平成25年度からは自身が所属するアジア文化研究会主催で飲食文化研究会を開催し、年1回の研究会及び例会を開催することがで

きた。

平成 26 年度後半からはまさに青天の霹靂とも言うべき病に罹り歩行が困難となったが、学生や研究所所員の助けを借りて、国内外での研究発表、論文執筆、研究会開催等、研究活動を遂行することができた。

以下に四年間の研究成果について報告したい。

日本においては食物本草書が中国から輸入され、その後多くの注目を浴びた。中国と異なる点は、食物こそが薬をしのぎ、生きていく上でもっとも大事なものであるという認識をもっていたことである。つまり、日本における本草学は当時の一般の人々が必要とする情報を分かりやすく提示したものであり、非常に身近なものであった。『本草綱目』の読者層は主に採集者、売薬業者など、薬物を専門に扱う人々が対象であると考えられる。これに対し『大和本草』の読者層は広く庶民、また飢饉のときに彼らの救済にあたる村の役人や指導者であったと推察できる。薬物を専門に扱う人々のみが対象ではなかったということが、両書の大きな違いである。稲を含めた五穀、五味と陰陽五行との関係とその認識の相違点についても細部まで考察することが出来た。しかし、中国と日本における本草学と飲食、また陰陽五行関係の文献と資料のリスト作業はまだ道半ばである。引き続き今後の課題としてその作成に努めたい。また、竹中通庵『古今養生録』十五巻には、韓国の許浚(1537 - 1615)『東医宝鑑』(1613 年刊)が引用されるなど、日本と韓国において盛んに医薬、食物本草学の交流が行われていたことから、日本と中国のみならず韓国における食物本草関連書についての考察も今後の課題として残されている。

一連の飲食文化研究会の成果としては、様々な国の飲食と文化、そしてそのベースとなる思想と哲学を専門家のみならず一般の人々を巻き込んで多に議論したことは、専

門知の普及において意義があった。

いま現在も困難な病状が残っているが、四年間の研究成果と資料をもとにさらに研究を続けていくつもりである。今年の 6 月 10 日には京都アスニにて 600 人以上の聴衆を集めた講演会を行った。テーマは易占についてであり、未来の像を占うものであった。これは、四年間行ってきた研究や一連の飲食文化研究会の成果でもある。専門的な文献目録の作成のみならず一般むけの講演においてもそれを発信することが出来たのは望外の喜びであった。

平成 28 年 8 月には中国の北京大学にて開催される国際シンポジウム「東方文明と心理健康国際学術検討会」に参加し、日本と中国の養生術の相違について発表する予定である。当初の研究目的の一つであった本草学と飲食文化の論説、そしてそれと陰陽五行説との関係を引き続き追求していくつもりである。また日・中・韓の本草学関係の文献目録及び資料集の作成を 2017 年度に刊行出来るように努めているところである。

飲食文化研究会も国際基督教大学の各研究所の支援を得て引き続き行っていくつもりである。またヨーロッパにおいて毎年行われている飲食文化研究会大会にも参加したいと思っている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 7 件)

古藤友子、「東アジア食文化の新考察

17 世紀日本の食物本草書からみる」、『術数学の射程 東アジア世界の「知」の伝統』、査読有、pp143-155、2014

古藤友子、「実生活の学問と芸術-与謝野晶子にみる」、『アジア遊学 176 東アジア世界の「知」と学問-伝統の継承と未来への展望』、査読有、pp75-83、2014

古藤友子、「中国飲食文化にみるパロディ

イ-仮料理管見-』、『パロディと日本文化』、査読有、pp436-452、2014

古藤友子、「中国古代の飲食文化と礼楽 孝子の三道をめぐって』、『「礼楽」文化 東アジアの教養』、査読なし、pp.10-35、2013

古藤友子、「災害と食糧 二宮尊徳の烏山仕法にみる』、『自然と実学』、巻四、査読なし、pp.38-50、2013

古藤友子、「日本人の価値観をどう伝えるか-アニメ・マンガを用いて』、日本語教育ワークショップ、2012・秋、査読なし、pp9-22、2013

古藤友子、『『本草綱目』看中日実心実学思想』、『実学研究 第一集輯』、pp.293-303、2012

〔学会発表〕(計 12 件)

古藤友子、「東亜食文化新考-十七世紀日本食物本草書籍管窺』、四川大学招待講演、2014年11月25日、四川大学(中国四川省)

古藤友子、「易の話』、Camp NIDOM21、2015年5月30日、軽井沢鹿島の森ロッジ(長野県軽井沢町)

古藤友子、「易のかたち』、形の文化会大会、2015年5月23日、共立女子大学神田一ツ橋キャンパス(東京都千代田区)

古藤友子、「茶の湯と陰陽五行説』、茶の湯と中国-和漢の境をまぎらかす-、2015年4月18日、国際茶道文化協会(東京都新宿区)

古藤友子、「実生活の学問と芸術 与謝野晶子にみる』、ICU アジア文化研究所 第12回 東アジア実学国際学術大会、2013年11月24日、国際基督教大学(東京都三鷹市)

古藤友子、『『大易断例ト筮元龜』の挿絵比較』、15~17世紀における絵入り本の世界的比較研究プロジェクト シンポジウム「東アジアにおける占本の挿絵の共

通性をめぐって』、2013年12月7日、慶應義塾大学三田キャンパス(東京都港区)

古藤友子、「礼書に見る儒学の養老思想と理想の治』、第9回国際儒学論壇、2013年11月30日、中国人民大学孔子学院(北京市、中国)

古藤友子、「中国五味論小考-李時珍『本草綱目』の分類にみる』、ICU 哲学研究会、2013年3月2日、国際基督教大学(東京都三鷹市)

古藤友子、「占いとは何か-易の世界』、大谷大学中国文学会学術公開講読会、2012年12月10日、大谷大学尋源館(京都府京都市)

古藤友子、「易における聖人・君子論』、国際退溪学会大邱慶北支部・京都フォーラム、2012年8月18日、韓国嶺南大学国際館(慶尚北道、韓国)

古藤友子、「東アジア食文化の新考察 17世紀日本の食物本草書からみる』、ソウル大学・京都大学人文科学研究所共催「易における聖人・君子論」国際退溪学会大邱慶北支部・京都フォーラム、2012年6月22日、ソウル大学(ソウル市、韓国)

古藤友子、「日本人の価値観をどう伝えるか-アニメ・マンガを用いて』、東海大学ヨーロッパ学術センター 日本語教育ワークショップ、2012年5月12日-13日、東海大学ヨーロッパ学術センター(ベドベック、デンマーク)

〔図書〕

古藤友子、「自分で答えをだしたい人のはじめての易占』、青土社、340ページ、2012年

〔その他〕

飲食文化研究会
(国際基督教大学にて開催)

● 第一回研究会 2013年3月23日

- 第二回研究会 2014年3月29日
- 第三回研究会 2015年3月28日
- 第四回研究会 2016年3月19日

- 第1回例会 2013年6月29日
- 第2回例会 2013年12月14日
- 第3回例会 2014年6月28日
- 第4回例会 2014年12月13日
- 第5回例会 2015年11月21日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

古藤 友子 (KOTO, Tomoko)
国際基督教大学・教養学部・教授
研究者番号：90195751

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし